

「特別の教科 道徳」(道徳科)の授業づくり

—新たな時代を共によりよく生きる子どもたちを育てるために—

広島文化学園大学 渡邊 満

はじめに

いま求められている道徳授業は、子どもたちが相互主体的に取り組むことができ、かつ、子どもたちの諸課題に応えることのできる授業である。

I 今日の子どもたちの基本的諸課題と道徳の時間の教科化(学習指導要領の改正)

1. 現代社会の中での子どもたちの諸課題

- ①社会の基本的なルールを遵守しようとする意識が希薄になっている。
- ②自己中心的で、善悪の判断に基づいて自分の欲求や衝動を抑えることができない。
- ③言葉を通じて問題を解決する能力が十分でない。
- ④自分自身に価値を見だし、自尊の感情を持つことができないでいる。
(総務庁 青少年問題審議会答申「『戦後』を越えて—青少年の自立と大人社会の責任」1999年)

2. 学習指導要領改正(道徳の教科化)のポイント

(1) 学習活動と学習内容の改善・充実

[小学校中学校共通]

- ① ・道徳的価値の理解を基に自己の生き方を深めることの明確化
・多面的・多角的に考え、考えを深める。
・主体的学びの実現。自分事として考える。
・道徳の内容について、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容でもあることの明確化と内容の理解のとどまらず、自己の生き方を深く考えることの強調。
- ② ・道徳科においては、道徳の内容を全学年ですべて取り上げること
・低学年から中学生に至るまでの内容の発展的配置(1、2、3、4からA、B、C、Dへの内容項目の視点等の順番の変更と1~22までの内容に名称を付し、一覧表を作成)。
・各教科等においては道徳の内容について各教科等のそれぞれの特質に応じて適切に指導することの明確化。
- ③ ・道徳教育推進教師(道徳教育の推進を主に担当する教師)を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開することの明確化。
- ④ ・道徳の学習に取り組む学びの在り方を評価するために多様な工夫を行うこと、
・学びの在り方の評価(励ます評価、カリキュラムマネジメント(指導と評価の一体化)、個人内評価、大きくくりな評価、文による記述式の評価等)
- ⑤ ・先人の生き方、自然、伝統と文化、スポーツなど、児童生徒が感動を覚える魅力的な教材の開発や活用、現代的な課題に取り組む
- ⑥ ・問題解決的な学習・体験的な学習の推進(考え議論する道徳、ロールプレイング等道徳の実践の導入)

(2) 考え議論する道徳・主体的対話的で深い学びの推進

- ① ・自分の考えを基に、書いたり議論したりするなどの表現する機会を充実し、自分の考えを多面的・多角的に深め、成長を実感できるような指導を重視

II 道徳的価値の理解を基に、主体的な学びと自己の生き方を深く考えるための道徳授業の諸工夫

1. 基礎的な価値を伝え、自己の在り方を考えさせる

(1) 構造化方式の道徳授業 (金井 肇)

- ・道徳性とは、児童生徒一人一人の内面に集積された諸価値が統合されたものである
- ・自然性と価値意識や価値体系の二重構造・・・両者のバランスのとれた発達を促すのが道徳授業の課題

(2) 価値の類型化・一般化による道徳授業 (赤堀博行)

- ・道徳授業の特質は、道徳的価値の内面的な自覚であり、バランスのとれた栄養素としての道徳的価値を繰り返し摂取し、健康で豊かな心をつくる
- ・子どもの感じ方考え方(価値観)の分類・整理をし、多様な感じ方・考え方(価値観)との出会いを通して、自分の価値観を自覚させる(類型化)
- ・資料の特定場面や状況から離れて、ねらいとする道徳的価値にかかわる様々な体験などを想起して、現在の自分の価値観を自覚できるようにする(一般化)
- ・自分自身を客観視することを学ぶことによって自分自身の人格を確かなものとする

(3) 再現構成法による道徳授業 (八木下洋子)

- ・一枚絵を少しずつ見ながら場面を構成し、資料の世界へ誘う手法
- ・子どもたちの感覚や感性をフルに発揮した道徳の授業
- ・子どもたちの想像力を創造力へつなげる方法

2. 価値観の相対化を認め、個人の生き方を明確にする道徳授業

(4) 価値の明確化による道徳授業、構成的グループエンカウンターによる道徳授業

(諸富・尾高)

- ・教師による教え込みを排して、子どもの主体性を尊重する
- ・関心や意欲といった情意的側面に着目して全人教育的な活動を展開する
- ・体験的活動を道徳授業に持ち込む
- ・授業の流れ
 - 個人学習—グループでの話し合い活動—学級全体での話し合い活動—個人学習
- ・価値のシート
 - ①新聞記事を読んで、思ったことを書きましょう
「ヘブンズパスポート」(良いことをしたらシールをヘブンズパスポートに貼り、100集まると天国に行ける)
 - ②「いいこと20例」を参考にあなたにできる「いいこと」を5つあげてください(その理由も書いて下さい)
 - ③グループで、互いのいいことを5つ聞きあいしましょう、そして、いいと思ったことは書きとめましょう(氏名、いいこと)
 - ④全体で話し合ってみましょう(シェアリング)
 - ⑤もう一度自分が考えることを5つ書きましょう
 - ⑥今日の学習で考えたこと、感じたこと、気づいたことをノートに書きましょう

3. 道徳的判断を支える道徳性を高める道徳授業

(5) コールバーグの道徳性の発達段階理論による道徳授業 (徳永悦郎)

- ・価値のとらえ方の相対性と価値判断の正当性(正しさ)のとらえ方の普遍性
- ・道徳的葛藤場面における判断の理由付けに示される道徳性

・ 道德性の発達段階

- | | | |
|-----------|-------|-------------------|
| 慣習以前のレベル… | 第1段階 | 罰と服従志向 |
| | 第2段階 | 道具主義的相対主義者志向 |
| 慣習的レベル | …第3段階 | 対人関係の調和志向 (よい子志向) |
| | 第4段階 | 「法と秩序」志向 |
| 慣習以後のレベル… | 第5段階 | 社会契約的遵法主義志向 |
| | 第6段階 | 普遍的な倫理的原理志向 |

- ・ 葛藤場面の設定と行為選択とその根拠の理由付け
- ・ 理由の妥当性をめぐり話し合い
- ・ より合理的な (普遍性・説得力のある) 理由付け
- ・ オープンエンドの話し合い

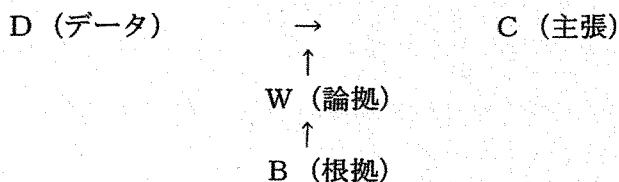
III 三つの主要な道德授業の方向を統合する試み

(6) 統合的プログラムによる道德授業 (伊藤啓一)

- ・ 伝達, 創造の二方向から迫る授業
 - A型…「ねらいとする道德的価値」の教授 (内面化) を第一義とする授業
 - B型…「子どもの個性的・主体的価値表現や価値判断」の受容を第一義とする授業
- ・ 両タイプを組み合わせたプログラムの設定
 - 「生命」を大テーマとして, 5時間扱いのプログラム
- ・ 「教」と「育」のバランスを大切にされた道德授業論?

(7) 討議 (コミュニケーション的行為の理論) による道德授業 (渡邊満ゼミ)

- ・ コミュニケーションは, 公的領域を作り出し, 複数性を前提とする個々人のアイデンティティを形成する唯一の活動である (アレント, H. 『人間の条件』)。
- ・ 「学ぶ」と「教える」が成り立つ諸前提の再考 (ウイトゲンシュタイン, L.)
- ・ 道德及びその学習を子どもたち一人一人の内面の事柄としてのみ捉えるのではなく, 30数人の子どもたちが教室の中に作り出している学級を一つの社会として捉え, その社会をより善い (合理的な) 社会に発展させていくことに一人一人が共同して取り組み, その成果として一人一人が価値や自己の生き方の自覚を深める学習活動を道德学習と捉える考え方である。
- ・ 道德性の発達段階と脱中心的思考の発達 II 3-(5) 参照
- ・ ハーバーマス, J. の相互行為の発達段階論
 - 社会の発達と個人の発達の相互性 (コールバーグの道德性の発達段階論の課題)
- ・ 両者をつなぐコミュニケーション的行為 (話し合い, 討議) = 人と人との間での妥当性 (真理性, 正当性, 誠実性) の確認 (対象レベルとメタレベルの言語行為の二重構造)
- ・ 正当性の追求による社会的世界の構築・改変
- ・ 意見とその根拠を追求するクローズドエンドの討議 (Diskurs) による道德学習
- ・ トゥールミン (, S.) ・モデルによる討議の精密化



D : 僕は昨日君に消しゴムを貸した。君は明日返すと言っていた。

C : 僕の消しゴムを返してくれ。

W : 約束は守らなければならない。約束を守ること(誠実さ)は大切なことである。

B : ①お父さんも言っていたけど約束は守らなければならない。

②約束が守られないと悲しい。約束を守ると気持ちがすっきりする。

③約束は守るべきだとみんな思っている。

④僕たちの社会や人間関係は約束によって成り立っている。

約束が守られない社会は善い社会ではない。

・話し合いのルール

① 誰も自分の意見を言うことをじゃまされてはならない。

② 自分の意見は理由をつけて言う。

③ 他の人の意見にははっきり賛成か反対かの態度表明をする。その際、理由をはっきり言う。

④ 理由が納得できたらその意見は正しいと認める。

⑤ 意見を変えてもよい。ただし、その理由を言う。

⑥ みんなが納得する理由を持つ意見は、みんなそれに従わなければならない。